

自然界の旬



18 初夏の草原

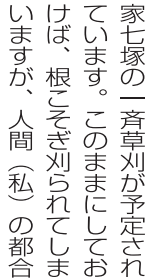
草々の萌え出ずる時期

代表はホトトギスと卯の花



ニワゼキショウ(右)、アカツメクサ(左下)

派手なヒラドツツジの後にニワゼキショウ、ムラサキツユクサ、ムラサキキコケ、ボタン、スミレ、シロツメク



六月十二日(土)には、ボランティア団体による高原の家七塚の一斉草刈が予定されています。このままにしておけば、根こそぎ刈られてしま

同じ草原に、ツリガネニンジン、ウツボグサ、ワレモコウ、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウも目を覚まして場所をとり始めました。キクイモドクダミ、ミヤマヨメナ、ゲンシヨウコもじわじわ占領地を広げています。これらの草々が季節を違えて棲み分け

るのなら大きな争いにはならないと思いますが、何せ初夏のこの時期に一斉に出てくるからたまりません。地下では年間を通してもっと激しい争いが繰り広げられているものと思われ



ムラサキツユクサ

五月山 卯の花月夜 ほととぎす 聞けども飽かず また鳴かぬかも(作者不詳) (NPO法人七塚原自然体験活動研究センター)

理事長 西村清巳

ホトトギスの初音は五月二十日に聞かれました。まだ卯の花は咲いていません。万葉の昔からホトトギスと卯の花はペアだったのにどうした

のいい種(主に葉草)を残そうとすれば、六月十二日までに残したい草の周辺を全部刈っておかなければなりません。最近アザミも残せという要望が出ており、今から草刈機と腕の整備に力を入れています。

「家守」と記すことに対してイモリは「井守」と表すことから、本種が水中に住んで

しは混同されますが、ヤモリはヘビやトカゲ、カメと同じ爬虫類です。ヤモリは漢字で「家守」と記すことに対してイモリは「井守」と表すこと

黒い背中に、腹面は毒々しいほどに赤い斑点模様のイモリ。正式にはアカハイイモリと言いますが、カエルやサンショウウオと同じ両棲類です。窓にくっついてるヤモリとしては



14 イモリ

今年、母と尾瀬の湿原に花を見に行くことを楽しみにしています。6月になると、尾瀬ヶ原には有名なミズバショウをはじめ、多様な花が咲き始めます。広島県内でも、尾瀬のように広大ではありませんが、自然の湿原がみられます。

広島県の湿原は、山間の湧水のみみ出しがある、緩やかな傾斜地や日当たりのよい浅い谷に散在しています。そこは、地形、地質ともに特

は急速に減少しました。さらに、一部の人間による盗掘により、サギソウの個体数の激減も懸念されています。生育場所が見つかったという新聞報道の直後に姿を消したという事例もあります。

サギソウは華麗な姿をしていることから、栽培品種が園芸店などでよく見られます。また、家庭で栽培されるなど、身近な存在とな



18 サギソウ

本来の生育場所では生き生きと

盗掘で激減が懸念



華麗な姿のサギソウ

私は、そこに保全への答えがあるような気がします。「いきものをまもる」とはどのようなことなのか、サギソウの花を愛でながらじっくり考えたいものです。(環境保全課 溝淵 綾)



雨天時に陸を歩く成体

を他の動物に知らせる警戒色になっていると考えられています。実際イモリは、フグと同じテトロドトキシンという毒を持っており、陸上で強い刺激を受けると横に倒れて体を反らせ、赤い腹を見せる動

骨まで再生し、なんと四肢を肩の関節より先で切断しても指先まで完全に再生するので、その再生力の高さから、向井千秋宇宙飛行士と共にスペースシャトルに搭載され、宇宙で実験と観察も行われた

ものです。(環境保全課 原 竜也)

驚くほど高い再生能力を持つ

赤いお腹は警戒信号

作を行います。また、イモリはその再生能力が高いことも有名です。トカゲは尾を自切し、再生することが知られていますが、実は尾骨までは再生しません。これに対してイモリは完全に

集団越冬している

いることが分かります。ちなみに井守の「井」は井戸ではなく「田の用水」を指していると言われており、昔から田んぼを守る生き物として身近だったことが容易に推測できます。かつて日本ではイモリ

の黒焼きは「惚れ葉」とする言い伝えがあったようですが、もちろんその効能は無いよう

です。さて、イモリのお腹はなぜあんなに毒々しく赤いのでしょうか。それは毒をもつこと



生物調査事業
さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るための生物調査事業を行っています。
地域の自然を知る 陸上生物・水生生物・海域生物調査
大切な生き物を守る 野生動植物保全対策調査
失われた自然を取り戻す 自然再生計画立案・実施
実施の枠組み 住民や行政・事業者の自然との共生の取組を生物保全の専門家としてお手伝いします。
(財) 広島県環境保健協会
問い合わせ: 財団法人広島県環境保健協会 環境生活センター 環境保全課 電話: 082-293-1580 FAX: 082-293-5049